

令和6年度 上尾市立東町小学校 学校経営方針

コミュニティ・スクール
上尾市立東町小学校
校長 黒木 康文

～ 不易と流行を見極めた挑戦 ～

1 基本理念

社会の在り方が急激に変化する中、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す令和の日本型学校教育やICTを活用した学びの在り方、9年間を見通した小中一貫教育、働き方改革など、学校（教職員）に求められていることは多岐にわたっている。また、コロナ禍を経て、これまで行っていた教育活動も少しずつ戻り、現在、学校は過渡期を迎えている。

このような変化の激しい時代だからこそ、改めて、教育における「不易と流行」をしっかりと見極めることが大事だと思っています。子供たちに様々なことを教え、良き方向に導く教育者として、変わらぬ大切なものを守りつつ、変化に柔軟に対応し、必要な新しいものを取り入れていく、そのような思いから令和6年度の表題を「不易と流行を見極めた挑戦」といたしました。

これまで本校が築き上げてきた47年間の歴史と伝統を継承しつつ、さらに進展が図れるよう、全職員で一致団結し、全力で取り組んでいきたいと考えています。

2 学校教育目標

「自ら学ぶ意欲をもち、心豊かなたくましい^{あずま}東っ子」の育成

3 目指す学校像

- (1) 児童・保護者・地域から愛され、信頼される学校
- (2) 教育への情熱にあふれ、活気ある学校
- (3) 絶対に教職員事故を起こさない規範意識の高い学校

4 目指す教師像

- (1) 教育者としての誇りと使命感と倫理観をもった教師
- (2) 自分自身の成長のために、仲間と切磋琢磨できる教師
- (3) 謙虚な気持ちを持ち、人間性を磨き続ける教師
- (4) 他者を慮り、周囲に気が配れる教師
- (5) 感謝の気持ちを表せる教師
- (6) 感動できる豊かな心をもった教師

5 教師の行動指針 ～礼を正し 場を清め 時を守る～

(1) 礼を正す（よりよい人間関係づくりのための接遇・マナー）

○あいさつ

授業の始まりと終わりのあいさつをしっかりと行う。本校の年間目標は、「進んであいさつをしよう」です。児童にあいさつが習慣として身に付くよう、教員自ら進んで気持ちのよいあいさつを行う。

○時と場に応じた言葉遣い

児童にとって教師は最大の環境であるため、教師の発する言葉には重みがある。そのことを常に意識し、児童に対して正しい言葉遣い、丁寧な言葉遣いをする。（保護者及び同僚、来校者等も同様）また、暴言も体罰であることを強く認識して、言葉を発する。

○謙虚な気持ち、謙虚な態度

間違いは誰にでもあること。教員に間違いがあれば、それを認めしっかりと謝る。

児童一人一人個性があり、誰にでも長所・短所があると受け止め、個々の能力を十分に把握する。また、その個性を認め、個に応じた指導を行う。

(2) 場を清める

○美しく整った環境づくり

学校、教室等の環境も教育の大きな要因と考え、児童と一緒に環境を整える。ゴミの無い、いつでも清潔な教室環境をつくる。（黒板・ガラス窓をキレイに！）

学習に役立ち、児童の活動が見える掲示を行う。季節感のある掲示、時期に応じた掲示を行う。

授業の終わりに、次の時間の準備を促す。毎時間それを怠らないことで、児童自ら意欲をもって学習することを意識できるようにしつける。

(3) 時を守る

○授業開始・終了時刻を守る（チャイムで始まりチャイムで終わる）

教師が時間を守ってこそ時間を守る児童ア育つ。児童に時間の意識をもたせるとともに、学習時間を保証する。授業開始2分前には教室に行き、児童の様子を見ながら開始時刻を待つ。また、45分間でねらいに即した授業が展開できるよう、見通しをもちながら学習を計画し、実施する。児童に関わることを最優先に考え、後回しにせず即実行する。（教員の都合でなく、児童を尊重することにより、教員への信用を積み上げる）

6 目指す児童像

本校の目指す児童像

■進んで学びよく考える子(知)

■きまりを守り助け合う子(徳)

■最後までがんばる子(体) ○明るい元気な子(体)

上尾中学校区で目指す児童生徒像（小中一貫教育）

- | | |
|------------------|----------------------|
| ■ 真剣に学習に取り組む子（知） | ■ 自分の意見や考えを表現できる子（知） |
| ■ 進んであいさつをする子（徳） | ■ 自分や友達を大切にできる子（徳） |
| ■ 健康でたくましい子（体） | ■ 命を大切にする子（体） |

- (1) 進んで学びよく考える子・真剣に学習に取り組む子・自分の意見や考えを表現できる子
- 自分の意見や考えを表現できる子
 - 基本的な学習習慣を身に付けた子
 - 筋道を立てて、しっかり考え、互いに学び合う子
- (2) きまりを守り助け合う子・進んであいさつをする子・自分や友達を大切にできる子
- 気持ちのよいあいさつや返事ができる子
 - 決まりを守り社会の一員として責任を持って行動できる子
 - 相手のことを考えて話したり行動したりできる子
- (3) 最後まで頑張る子・明るい元気な子・健康でたくましい子・命を大切にする子
- 進んで体を動かし元気よく生活する子
 - 自分の命は自分で守れる子
 - 最後までやりぬく強い心をもつ子

7 令和6年度の重点目標

- (1) 確かな学力の育成
- ① 学級経営の充実
 - 児童一人ひとりに自分の存在感、自己有用感を味わわせる学級づくりに努める。
 - 互いを認め合える人間関係を大切にした学級経営に努める。
 - 児童一人ひとりをよく見て、話して、接して、児童理解に努める。
 - ② 学習指導の充実
 - わかる、できる喜びを味わわせる授業実践に努める。
 - 1単位時間に、児童に何をつかませるのかを明確にするための教材研究を十分に行う
 - 授業のねらいを明確にし、それを達成するための授業展開を教師自身が整理してから授業に臨む。
 - 1単位時間に見通しと振り返りの活動を必ず取り入れる。
 - 単元の中で説明したり、発表したりする活動を必ず取り入れる。
 - ICTを活用した学習を積極的に行う。
 - 電子ドリルの積極的な活用（2年生以上で今年度より導入）
 - ③ 読書活動の推進
 - 読書に慣れ親しませられるよう、学級単位で積極的に図書室を活用する。
 - とくの日（読書の日）を活用し、読書に親しませる。（目標20,000冊）
 - ④ 英語力向上の取組（進んで英語を話せる児童の育成）

- イングリッシュトークの積極的な実施（ALTと会話をする時間の設定）
- 全学級で英語活動、外国語活動、外国語科の授業公開を行う。（2月に実施）

（2）豊かな心と健やかな体の育成

① 道徳教育等の充実

- 道徳科を要とし、教育活動全体を通して道徳的な心情、判断力、実践意欲を養う。
- とく（徳）の日に道徳ノートを持ち帰り、保護者とも共通理解を図る。
- たてわり活動（異年齢集団での活動や行事）を充実させ、相手の立場や気持ちを考え、て行動できる思いやりある児童を育成する。

② 体力向上・運動好き児童の育成

- 運動の質と量を確保した体育授業の実践
- わかる・できる・活用する・関わる 楽しい体育授業の実践
- ぐんぐんタイム（5月～2月の毎週金曜日の業間に実施）を活用し、基礎体力の向上を図る。

③ 清掃活動の充実

- 児童とともに教員も黙働清掃を行い、美しく整った学校にする。
- 自分たちの学校を我が家と同じように誇れるきれいな学校にする。

（3）多様なニーズに対応した教育の推進

① 特別支援教育の推進

- 特別支援学級の児童との交流及び共同学習を推進する。
- 通常学級においても特別支援教育の視点に基づいたきめ細かい指導を充実させる。
- アッピースマイルサポーターとの連携
- 上尾特別支援学校との交流活動の推進（4年生）

② 教育相談体制等の充実

- 児童一人一人の状況に応じたきめ細かな教育相談ができる体制を充実させる。
今年度5月より月1回の教育相談日を設定する。また、児童や保護者のニーズに応えられるよう、スクールカウンセラー及びさわやか相談員との面談を充実させる。
- 不登校児童や教室への入室が困難な児童が安心できる場所（部屋）を確保する。
- 不登校の未然防止、早期発見・早期対応を図る。
- 外国人児童などが学校生活に円滑に適応できるよう、日本語指導員を派遣を依頼し、教育支援の充実を図る。

（4）生徒指導の充実

① いじめへの迅速な対応 ～いじめの見逃しゼロ～

- いじめ防止基本方針に則り、「いじめは絶対に許されない」、「いじめは卑怯な行為である」、「いじめはどの子供にも、どの学校でも起こりうる」との認識を持ち、学校の最優先課題として捉え、組織で迅速に対応する。
- 全職員が全ての児童に対して同じ目線で、同じ方向性で指導ができるようにする。
（共通理解・共通行動の実践）

○生徒指導委員会及び教育相談委員会を定期開催し、配慮を要する児童の情報交換や生徒指導上の課題を全員で共有する。

(5) 開かれた学校づくりの推進

①教育活動の積極的な情報発信

○児童の頑張りや様々な行事及び日常の教育活動をさくら連絡網で配信する。

○学校ホームページを魅力ある情報発信となるよう改善する。

②学校運営協議会の進展

○学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の認知度・理解度を高めるために、学校運営協議会の情報発信を行う。

○地域の教育力（人材・施設）を積極的に活用する。

③家庭・地域と一体となった教育活動の充実

○近隣の幼・保・小・中との連携（小中一貫教育の推進）

○学校応援団活動の充実

○家庭学習の推進と定着

○PTA・学校応援団・おやじの会との連携強化

(6) 働き方改革の推進（時間外勤務時間を月45時間、年間360時間以内）

○ASS、SSS、ICT支援員の活用を促進して教職員のサポートを充実させる。

○既存のやり方にとらわれない新しい行事の在り方を検討・実施する。

○余剰時数を削減する。

○年休等の休暇を取得しやすい環境を作る。